

「山田本店煙草仕入れ帳」から分かる、大正時代中期の常呂村における タバコ喫煙の種類・銘柄及びタバコの定価

*大正8年8月から大正9年12月にかけて、山田本店が「網走煙草元売捌本店」から仕入れたタバコの仕入れ帳を元に、当時好まれていた「きざみタバコ 口つきタバコ 両切りタバコ」の銘柄・数量・定価を一覧にして、分析した。

1. 種類：「煙草売渡伝票」記載の対象銘柄

(1) きざみタバコ

* 伝統的な細刻み（ほそきざみ）たばこをきせるで吸うタバコ

- ①水府（40匁） ②薩摩（40匁） ③福寿草（40匁・20匁・5匁） ④白梅（40匁・20匁・5匁）
- ⑤さつき（40匁・20匁・5匁） ⑥あやめ（40匁・20匁・5匁） ⑦はぎ（40匁・20匁・5匁）
- ⑧なでしこ（40匁・20匁・5匁） ⑨富貴煙（40匁）

(2) 口つきタバコ：20本入り

* 紙巻タバコに〈口紙〉と呼ばれるやや厚い円筒形の吸い口をつけたもので、そこを吸いやすいようにつぶして喫煙するタバコ

- ①国華 ②不二 ③敷島 ④やよい ⑤大和 ⑥朝日 ⑦カメラリア ⑧たつた

(3) 両切りタバコ：10本入り

* 両切たばこは、刻んだたばこを紙で巻き、両端をそろえて切断したタバコ

- ①ナイル ②アルマ ③オリエント ④スター ⑤エアーシップ ⑥リリー ⑦ゴールデンバット ⑧胡蝶

2. 仕入れ状況

(1) 大正8年

銘柄	月 日				計	定価
	8 / 2	8 / 12	12 / 18	12 / 24		
*きざみ						
さつき：40匁	30	30	20		80	72銭
20匁	30	30			60	38銭
あやめ：40匁	70	70	35	60	235	56銭
20匁	50	50	10		110	30銭
5匁			20		20	10銭
白梅：5匁			20		20	15銭
はぎ：40匁			40	50	90	42銭

*口つき	8 / 2	8 / 12	12 / 18	12 / 24	計	定価
敷島			200	80	260	15銭

*20本入

*両切り	8 / 2	8 / 12	12 / 18	12 / 24	計	定価
ゴールデンハット				100	100	7銭

*10本入

注：容量のグラム換算 1匁=3.75グラム

40匁	150グラム
20匁	75グラム
5匁	18.75グラム

(2) 大正9年

銘柄	月 日					
*きざみ	1 / 28	2 / 4	3 / 29	5 / 9	5 / 12	6 / 4
さつき : 40匁			10		5	
20匁						
5匁	20					
あやめ : 40匁	25		50			5
20匁	100					
5匁						20
白梅 : 5匁	60			20		
はぎ : 40匁	150		120			15
20匁						
5匁			20			20
なでしこ : 40匁						5
*口つき						
敷島		80	140			140
やよい		20				20
朝日		40	60	100		20
*両切り						
ゴ-ルテソバット		100	50		150	50

銘柄	月 日					
*きざみ	6/17	6/27	7/9	9/16	9/30	11/4
さつき：40匁		10	5		10	30
20匁					5	5
5匁			20	20		
あやめ：40匁	10	30	15	20	40	50
20匁		5		10		30
5匁						
白梅：5匁			20			
はぎ：40匁		30	150		5	150
20匁			20			50
5匁			60			
なでしこ：40匁			5			

*口つき	6/17	6/27	7/9	9/16	9/30	11/4
敷島	140	260	300	160	160	80
やよい						
朝日	80	80				60
大和						60

*両切り	6/17	6/27	7/9	9/16	9/30	11/4
ゴールデンハット					50	

*きざみ	11/26	12/26	計	定価
さつき：40匁			70	72銭
20匁	20		30	38銭
5匁			60	10銭
あやめ：40匁	60	50	355	56銭
20匁		30	170	30銭
5匁	60	60	140	8銭
白梅：5匁			100	15銭
はぎ：40匁	150		770	42銭
20匁		20	90	22銭
5匁	60		160	7銭
なでしこ：40匁			10	30銭

*□つき	11/26	12/26	計	定価
敷島	280	300	2,040	15銭
やよい			40	15銭
朝日	100		540	12銭
大和			60	14銭
不二	20		20	20銭

*20本入

*両切り	11/26	12/26	計	定価
ゴールデンハット			400	7銭

*10本入

3. 資料から分かること

- (1) 大正8年、大正9年ともに年間を通じてのデータは揃っていない。
- (2) 大正8年は〈刻みタバコ〉が主流で、□つきタバコと両切りタバコはどちらも当時の定番〈敷島・ゴールデンバット〉の各1銘柄である。
- (3) 刻みタバコでは、大正8年では小容量の5刃の割合がとても少ないが、大正9年には急激に増えている。
- (4) □つきタバコは、大正9年には5銘柄まで増えている。
人気銘柄は〈敷島〉が圧倒的で、次いで〈朝日〉となっている。
- (5) 単純に比較できないが、大正8年から9年にかけて、キセルで煙草を吸う人から□つきタバコで直接タバコを吸う人が増え、喫煙習慣の変化が覗える。
- (6) 両切りタバコの仕入れ対象となっている銘柄は多いが、実際に好まれていたのは〈ゴールデンバット〉のみである。
- (7) タバコの定価は、昭和6年の「煙草買受価格表」(山田本店文書)に仕入れ値が定価の89%の記載がある。
これを参考に、大正8・9年の仕入れ数・仕入れ価格からこの数字を当てはめて算出した。

※注：雑貨・薬・タバコなど手広く商売をしていた山田商店(山田本店：山田甚助)は明治43年1月12日付で専売局長官名から、期限(明治43年1月12日から明治45年6月30日まで)と場所(常呂村字52番地)を定めた「煙草小売人」の指定を受けている。

※注：明治37年(1904)、「たばこ」の製造から販売までを国が管理する「煙草専売法」が施行され、大蔵省に煙草専売局が設置される
専売局が「□付たばこ」4銘柄と「両切たばこ」3銘柄を発売する

「JT たばこの歴史・文化：日本の歴史(明治期・大正期)」から引用